

短歌 (投稿順)

三回忌良範様が道を説く生き抜くことが供養なのだ
梅雨末期の大雨注意と予報士のことは厳しく人命守れと
声高に「おいさっ！おいさっ！」と笑顔咲く大人子供も山車も神輿も
強面の優勝力士涙しきりインタビューには笑みをこぼしぬ
ひん弱な二の腕を出す自信なくノースリーブを着られない夏
枝が折れ陸み育った大勢の榎っ子たちは淋しいだろう
朋からの電話楽しむ縁側に山百合の香の心地良きかな
猛暑にて草木も振れ哀れなり水分飲りて体力作り
近く来て語るかに鳴く老鶯に話し好きなる妹偲ぶ
生ぬるい空気ただよう地下鉄を急ぎ上がれば青き風なり
ホトトギスうぐいすの声庭の木々酷暑の昼は太陽ジリジリ
業平も思はざりけむ竜田川早緑色に水くくるとは
連作に加へ高温障害か庭の蕃茄の実の付き悪し
全盲の師逝きて悲し焼香の長き列には制服の友
都会からお盆正月里帰り今は里住み帰る場所なし
四年振り祭り太鼓に揚げ花火聞こえて来れば心浮き浮き

皆野 石原 達也
皆野 根岸 詩子
三沢 眞下 杏子
三沢 新井 叶子
皆野 萩原 初恵
三沢 新井 民子
皆野 村田ハツ代
下日野沢 浅見 豊子
国神 藤原マキ子
皆野 戸塚喜久雄
皆野 打木 昭廣
皆野 引間 万亀
皆野 太幡琉美花
上日野沢 四方田利男
下日野沢 新井 節子

俳句 榎本順江 選 投稿数 17句

雲海を見下ろす山も曾つて海
下日野沢 小原 和夫
(俳)およそ二五〇〇万年前秩父は海でした。想像も及ばない年月が作者の立っている秩父盆地を作りま
した。美しい雲海を眼下に見ながら大昔に思いを馳せる作者、雲海から大昔の海に思いを繋げ、秀句とな
りました。二句目(盲目の教師、新井淑則先生)盲目ながら教育に傾けた努力は計り知れませんが。善良な
人柄(淑人)は生徒に慕われ、教訓は生徒達の宝となることでしょう。突然の訃報に驚きと悲しみ。合歓
の花もやさしく揺れともに別れを惜しんでいます。三句目、くじ引きもジャンケンも勝ったことが無く、
運が付いてないと嘆きの声が聞こえます。負けたイライラは上空へ発散。負けるが勝ちで行きましょう。
淑人よ別れ惜しみの合歓の花
皆野 小菅恭青史
枝豆や辛党の推す塩加減
皆野 引間 千鶴
天高し負けず嫌いの勝ち知らず
皆野 石原 達也
思い出は宝よ友の盆迎え
皆野 櫻井 早苗
朝涼し無心に畑の草けずる
三沢 眞下 杏子
門火焚くけむり消ゆまで偲びけり
国神 藤原マキ子
蜂来ては揺らし続ける花ギボシ
皆野 戸塚喜久雄
垂れ替へて饒舌となり風鈴音
三沢 新井 民子
再びの賑わいを待つ夏祭り
皆野 根岸 詩子
無限なる宇宙を思ふ夏星座
上日野沢 四方田利男